

「自然体験活動インストラクター研修」講習内容報告

2月22日(土) 13:30~16:30

【講義・演習】 チラシ作りのイロハ

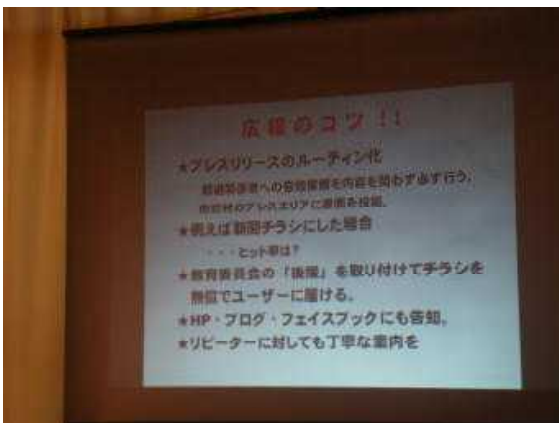
(一社) 西土佐環境・文化センター 四万十楽舎

専務理事 西本 五十六

はじめに、参加者間の自己紹介を行った後、チラシを作成するにあたって抑えておきたい事項(対象を見極め、その対象に届くデザインや内容・届ける方法など)について、実際にキャッチコピーの作成体験などを交えながら、講義・演習を行った。

以下要旨

- ・ チラシづくりに必要なこと(ハードとソフト)
- ・ 誰を対象にしているのか、誰が手に取るかを考えて、対象にどう呼びかけるのかを考えて、それぞれのイベントについて重要な項目を考える。対象が変われば、チラシの内容も大きく変わる。
- ・ チラシづくりに用いるアプリケーションソフトについて。プロのデザイナーも使っている「イラストレーター」について。NPO 団体として申請することで、格安利用できるサービスの紹介。
- ・ 実際に四万十楽舎で作っているチラシを用いて、チラシづくりで重点を置くことについて考える。
- ・ 県内でのチラシの配布方法のいろいろ(小学校の場合、マスコミ取材の場合)。
- ・ 行政やマスコミの「後援」名義のメリット、デメリット
- ・ チラシづくりで実際に苦勞をすること
- ・ 参加者とのつながり(距離の近さ)
- ・ 印刷会社について(ネットで注文する県外の会社を利用する方法)



2月22日(土) 17:30~21:30

【演習・情報交流】 高知の自然と自然学校

フリーランス(水棲生物研究家) 仁尾 かおり
(一社)西土佐環境・文化センター 四万十楽舎
専務理事 西本 五十六

高知県内の自然環境について、主に河川やそこに棲む生物を中心に講義を行った後、県内それぞれの地域における環境およびその地域で自然体験活動を提供している団体等について情報交換を行った。

参加者は自分が所属している団体や、自分自身の活動のみならず、自然体験活動に対する期待や、子どもたちに伝えたいことなど、それぞれの持つ想いを語りながら、有意義な情報交換となった。

以下主な意見

- ・豊かな環境に恵まれているにもかかわらず、その環境を活かしきれていない。
- ・子どもたちに活動を提供できる指導者が少ない。
- ・各団体ともメンバーの高齢化が問題となっている。
- ・今の子どもは体験が不足している。
- ・学校や家庭が危険に対してナーバスになりすぎてないか？
- ・子どもは昔から変わらず素直。ただ育つ環境は劇的に変わった。
- ・各団体の横のつながりは大切。井の中の蛙にならず、多くの刺激を受けることができる。



2月23日(日) 6:00~ 7:00

9:00~12:00

【演習】 自然を理解し、伝えるために

高知県シェアリングネイチャー協会

理事長 兼 松 憲 一

6:00からの1時間は、早朝の野外散策を兼ねて、冬の自然の様子を楽しみながら有害な植物や、危険な事項についての解説を受けたり、遊歩道を安全且つ有意義に引率するためのポイントについて学んだ。

9:00からのコマでは、屋内・屋外双方の活動をそれぞれ体験する中で、それぞれの活動を展開していくポイントについて解説がなされた。

[屋内]

- ・あるゲームの体験（各自がA4 の用紙を5枚にちぎり、3人グループでそれをシャッフルし、元の用紙を作りあげる）。その中で感じられること、気持ちの動き方について考える。
- ・元の用紙を完成させるためにメンバーとどのようなコミュニケーションがあったか？
- ・大切なことは、クリアすることではなく、そのあとの振り返り。

[屋外での実践]

- ・準備体操
- ・参加者への注意、気配りについて
- ・4つのネイチャーゲームの体験
（「音いくつ」「生きものあわせ」「動物交差点」「森の美術館」）
- ・年令に合わせたプログラムの作り方
- ・自然を解説するのではなく、ガイドしていく手法
- ・プログラムの進め方



3月 8日(土) 9:00~12:30

【講義・演習】 自然体験活動の理念と現状

国立室戸青少年自然の家

主 幹 片 山 貞 実

研修に入るにあたって、参加者の心と体をほぐす目的で、アイスブレイクを行った後、小グループに分かれて子どもの現状や、自然体験活動の持つ意味や効果についてディスカッションを行いながら、指導者の果たす役割について考察した。

以下要旨

- ・アイスブレイクを展開する際には、参加者の様子を見ながら展開していく。
- ・身体接触が少ないものから多いものへ、簡単な課題から困難な課題へ。
- ・体験活動の機会はどんどん失われている。
- ・高知県の子どもは知識を活用する能力が低い。体験活動で補完することができれば。
- ・我慢をしたり、達成感を積み重ねたりする経験が不足している。
- ・生活体験が豊かな子どもほど、道徳観・正義感が充実。
- ・自然体験が豊かな子どもほど、道徳観・正義感が充実
- ・経験：「人間と外界との相互作用の過程を人間の側から見ていう語。人間のあらゆる社会的実践を含むが、人間が外界を変革するとともにまた自己自身を変化させる活動が最も基本的なもの。人間の直接にぶつかる現実。」(「広辞苑第四版」)とも定義され、答申では、人間が実際に見たり、聞いたり、行ったりすることを広く指して用いる。
- ・体験：経験のうち、経験する者の能動性や経験の内容の具体性に着目して、能動的な経験や具体的な経験を指して用いている。



3月 8日(土) 13:30~16:30

【演習】 身近な自然を楽しもう

国立室戸青少年自然の家

主 幹 片 山 貞 実

屋外の公園にて、身近な環境で出来るアクティビティを体験した後、ふりかえりを行い、安全管理に関する演習を行った。

先ほど体験した活動を展開していく中で、どのような危険があり、その危険がどのような頻度で事故に結びつき、その事故の重大さを評価した。個々の危険を評価することで対策の立て方を具体的に考えることが出来ることを体感した。

以下要旨

- ・ 自然体験活動は身近な場所、簡単な道具でも実施は可能。
- ・ 目的と手法のマッチングが適正かどうか？
- ・ デジタルカメラ等の視聴覚機器を使用すると展開に幅ができる。
- ・ 事故は外的要因と人的要因が重なって発生する。
- ・ 「リスクの洗い出し→評価→対策の検討」のサイクルを一体として考える。
- ・ 「どんなに対策を講じても事故は起こる」という心構えは必要。事故発生時にパニックに陥らないためにも。



3月 9日(日) 9:00~12:30

13:00~16:00

【演習・実習】 自然体験活動の企画と展開

国立室戸青少年自然の家

主 幹 片 山 貞 実

種崎千松公園にて、林の中・浜辺それぞれで、目的の異なる（集団の仲間作りor身近な自然にしっかりと目を向ける）活動を行いながら、学校現場での応用方法について考察を行った。

その後、公園のフィールドを活用した20分程度のアクティビティを考え、提供する活動を行った。

企画シートに沿って、「対象の設定」「目的の設定」「目的達成のための要素」「基本要件」「活動の絞込み」「フィールドの設定」「活動の決定」「流れの確認」「リスクと対策」の順に決定・記入した後、互いのグループで活動を試行してみた。

その中で出てきた感想と、企画シート内の「目的の設定（活動後にどのような感想を言わせたいか）」と照らし合わせ、各活動が目的に沿った妥当な内容であったかを検証した。

